



手植えの感動を忘れないで(2025年5月26日)

庄内町家根合（かねあい）地区で、余目一小的4年生が昔ながらの田植え作業を体験しました。

家根合地区は、ほ場整備事業で「めだか保全池」を造ったことがきっかけとなり、小学校のカリキュラムとして地区と一体となった農業体験学習を行っているのです。

当日、子供たちは、たくさんの大人たちから田植えのことを教わりました。みんな泥んこになりながら、丁寧に苗を植えていきました。

「最初は気持ちが悪かったが、だんだん慣れて楽しかった」、「いっぱい教えてくれたおかげで、いっぱい植えることができた」、「家族は機械で田植えをしているが、手植えが楽しかった」と様々な感想が聞かれました。

田んぼには、6月中旬頃までにメダカを放流し、「めだか米」として栽培されます。秋には手狩りでの稲刈り体験や魚の学習会を行う予定です。

【取材：渡部】





農村RMO 大沢地区のマコモタケ定植 (2025年5月26日)

酒田市大沢地区でマコモタケの定植を行いました。

大沢地区では2年前から休耕田を利用してマコモタケを栽培しており、今回、平成6年7月25日の豪雨被災を免れた株を、約2キロ離れた調整田（約13アール）へ移植する農村RMO形成支援事業の一環として定植しました。

地域住民と山形大学の学生10名が田んぼの泥に足を取られながら、1メートル間隔で植えていきました。成長を祈りながら、秋にはみんなで収穫体験をし、おいしく試食できることを楽しみにしています。

【取材：五十嵐】





みんなで楽しく、さつま芋植え付けイベント(2025年6月16日)

鶴岡市羽黒町の蝦夷館（えぞたて）公園に隣接する畑で、さつま芋の植え付けイベントが行われました。

この畑は、所有者が高齢化して保安全管理することができなくなり、遊休化して草木に覆われていました。多くの観光客が蝦夷館公園を訪れて目にする場所ですので、「景観が悪い畑を放置することはできない」と手向（とうげ）地区保全会（会長 山本 啓さん）が立ち上がり、昨年、自治振興会と協働して芋の植え付けを行っています。

昨年は、手向地区の子どもたちと大人が30人参加して、紅あずまの苗500株を植え付けましたが、今年は、総勢40人が参加して、600株を植えました。畝数を増やしたので、だだちゃ豆の苗も植えました。

秋には、楽しい収穫祭を計画しています。





庄内平野の水資源を守る伝統行事～溜池神社例祭の斎行～(2025年6月17日)

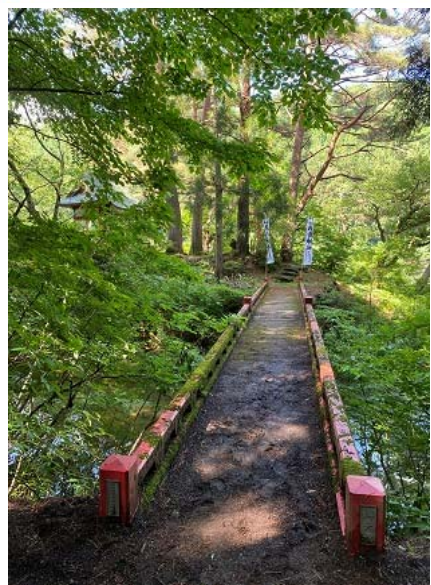
庄内平野の貴重な水資源を守り続ける日向川土地改良区では、毎年6月に溜池神社例祭を開催しています。

今年も堂見沢溜池、数河溜池にて神事が行われ、先人たちが築いた利水の歴史に敬意を表し、水の重要性を後世に伝える祈りを捧げました。

江戸時代から続く水の平等分配と干ばつ対策のための知恵。豊かな実りを願い、地域一丸となって神事に参加しました。

豊かな自然と共に歩む庄内平野の歴史に想いを馳せてみませんか。

【投稿：五十嵐】





(第825回)

離島「飛島」でのボランティア ～継続はチカラなり～(2025年7月11～12日)

7月11日から12日にかけて、庄内農村計画課・農村整備課等の職員有志が、飛島地区で毎年恒例となった農道側溝の泥上げや路面の清掃に汗を流しました。

飛島を南北に貫く農道は、農業農村整備事業（農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業）により造成されてから25年以上が経過し、施設の老朽化が進む中で、より一層の適時かつ的確な維持管理が求められています。

平成24年度から続くこのボランティア活動は今回で9回目となり、今回は11名の参加者が心をひとつに施設の維持管理と地域の環境保全に努めました。

釣りを楽しむ人々や身心を癒しに訪れる方々はもちろん、近年では海外からの観光客も増加傾向にあります。

今後も農業農村整備の視点から可能なサポートを検討し続けることが求められます。私たち職員一同は、農業農村整備においてどのような支援が可能かを引き続き考えてまいります。





庄内町家根合地区で、メダカ捕獲大作戦 (2025年7月23日)

庄内町家根合（かねあい）地区で、余目第一学区の子どもたちが「メダカ捕獲大作戦」を行いました。

家根合地区では、メダカがすめる田んぼで稲作を行っています。今年の5月に田植えを行った田んぼに、6月、在来種のクロメダカを放流しました。メダカは、田んぼの中で成長し、1匹が500個の卵を産み付けますが、7月に入ると田んぼの水を抜いて中干しされるため、メダカがすめなくなります。

このため、子どもたちは、田んぼから排水路に逃げ出したメダカをたも網で捕獲して、「メダカ保全池」に引っ越しさせました。

「去年より、メダカがたくさんいてびっくりした。メダカはかわいい」と話していました。

保全池に引っ越しさせたメダカは、池の中で成長し、越冬して、来年、田んぼに放流されます。





わくわく川遊び ～びしょ濡れになって～(2025年7月30日)

鶴岡市羽黒町のいずみ保育園、年長クラスの22人と一緒に、ウォーターランドを満喫しました。ペットボトルイカダに乗ったり、水でっぼうバトルを繰り広げたり、水風船釣りやおもちゃすくいで笑顔が弾けました。

水でっぼうでは園児同士でやさしいルールを決め、今回は大人がターゲットです。たっぷり水を浴びてスタッフたちもびしょ濡れになりました。

最後は子どもたちからのお礼として、感謝のダンスを披露してもらいました。

※水土里ネット笹川 21世紀土地改良区創造運動





水路で生きものの調査 (2025年8月21日)



農業農村整備事業では、計画、実施にあたり環境との調和に配慮することが定められており、事業の計画段階において、今の現地の生きものを把握するために専門家の協力のもと調査を行っています。

今回は今後整備予定の水路において、環境配慮対策を検討するために必要な植物や水生生物、昆虫の種類などの調査を行いました。その結果、一部で珍しい動植物（ニホンアカガエル、ウマノスズクサ）も確認されました。

この調査結果をもとに、今後地域の方を含めて環境配慮対策の検討を行う予定です。





めだかの田んぼで、元気に稲刈り体験 (2025年9月22日)

庄内町家根合地区の田んぼで、余目一小の4年生24人が稲刈りをしました。

今年の5月に田植えを行った「めだかの田んぼ」で、黄金色に実った稲を刈り取り、ていねいに一束ずつ収穫しました。子どもたちは、家根合地区の農家とJAの営農指導員から、鎌を使って稲を刈り取る仕方と稲の束ね方を教えてもらいました。田んぼが少しぬかるんでいたので、泥んこになりながらも、安全に気を付けながら、昔ながらの稲刈りを体験しました。

小学生からは「最初は難しかったけど、慣れてきていっぱい刈ることができた」「今は機械でやっているけど、昔の人は全部手刈りでやっていて、すごいと思った」と話していました。

収穫した稲は杭掛けして自然乾燥させ、「めだか米」として1人1キロ（約7合）ずつプレゼントされます。家根合地区の農家は「めだかの保全や農業の難しさを感じてほしい」と願っています。

